

「寝正月」

昨年の大晦日、長男がインフルに感染。近所の急患センターに行くと診察まで3時間、その後、会計から処方まで更に3時間。まさに1日がかりの診療です。夫婦で診察と会計を分けて担当したものの、先に診察までつきあった家内が、「あそこにあれだけいたら感染するわ」との言葉通り、翌元旦に発症。私も倦怠感から始まり発熱が……。ガビーン！

2024年の年末は日の並びが良く、公私ともにキレイに後始末がついた矢先でしたので、無茶苦茶、暗い気分になりました。元旦に取り寄せていたお節が無くなると、食料は全てコンビニ頼り。

お陰で今年は文字通りの寝正月。受験生の娘にインフルエンザだけは移すまいと3人のインフル患者が結集。例年になく、何も出来ない正月でした。

印象に残ったのは箱根駅伝くらいです。今までさほど真剣に見たことが無かったので、小さなことにも気付き、感動します。ランナーを先導する白バイ運転手の紹介までであること。中には箱根の先導したくって白バイ乗りを目指した人もいるじゃありませんか！
給水区間の距離も50mと決められているなんて知りませんでした。そしてそこにも様々な演出があります。

中でも9区、青山学院キャプテンと給水担当者の乾杯はほっこりするシーンでしたね。まだ残り1区残っている状況で、予祝する二人の姿は、まさに青学のチームワークの良さ物語るシーンでした。スポットライトを浴びられなかった部員含め携わる人みんなの力で「箱根駅伝」が成り立っていることが、良く伝わってきます。

さて、結果は今大会も青学が優勝。この10年で8度の総合優勝という強さに、アンチ青学の声も聴こえてきます。けれどウィキペディアで調べると、この青学、原監督が復活させるまで33年間という箱根駅伝史上最長の暗黒時代を経験した大学であることを知ると、私は許せる気がするのです。

解説者たちが皆ほめる練習量やその内容、そのこなし方にも興味湧いてきます。
去年マラソンリタイアした私はどんなに速く走ったつもりでも5分30秒ペースを5kmと続けられないのに、駅伝ランナーたちは同じ1キロを3分程度で20kmを走りぬけていくこともリスペクトの要因です。

ここ数年で間違いなく一番長い時間テレビを観たお正月でした。

サッポロビールの「丸くなるな、星になれ」よろしく、得意分野にとがり、星のように輝く人間を目指します。遅ればせながら本年もよろしく願いいたします。